

気象観測地点巡り

荒岡 衛

私は中学高校の時、気象部に所属していた。当時ラジオの NHK 第二放送で 9 時、16 時、22 時の 3 回気象通報が放送され、それを聞いて天気図を描いた。放送時間は 15 分でアナウンスは早口だった。その後、社会人になってから一度天気図の聞き書きをした時、ブランクがあったにもかかわらず十分書き取れた覚えがある。調べたら放送時間が 20 分に伸びていて読み上げる速度が遅くなっていたためだった。

現在天気図はインターネットで情報提供されるので、放送は 16 時のみになっている。仕事から完全に足を洗った時、この情報を発信している各観測地点はどのような所か自分の目で確かめてみようと思い立った。アメダスなどの観測地点は全国に 2000 ヶ所以上あるけれど、ラジオで放送される国内の観測地点は石垣島から富士山まで 32 ヶ所、それに中国、韓国、フィリピン他周辺諸国の観測地点が 22 ヶ所ある。

まず天気図用紙を入手しようとしたが文具店等にはなく、結局気象科学館に行って入手した。それを見ると昔と変わっている点がいくつかある。表記上の変更（济州島がチェジュ島になど）だけでなく、地点の変更（例えばウルップ島、松輪島がなくなり、セベロクリリスクなどが追加）も多々ある。

国内の観測地点のうち、父島、南鳥島、富士山の 3 地点は簡単に行けるところではない。これらを除く 29 地点に行ってみようと考えて石垣島から始めた。行って観測機器や、その設置状況、看板の写真を撮る。石垣島は地方気象台の敷地内にあり、見学申し込みをして職員の人に説明してもらった。しかし次に行った福江は無人観測地点になっていてデータは電送されていた。昔のような水銀温度計を入れた百葉箱はなく、空気を吸い込み熱電対で温度を測る。風速計は昔と同じロビンソン式だ。これまで 28 地点を訪れ、残りは佐渡の相川 1 地点。水中翼船ではなく飛行機を使いたいのでトキエアの佐渡線就航を心待ちにしている。

